

五月月次祭祭典講話

会長 芝太郎

『一日一回おさづけの本について④』

皆さん、こんにちは。緑の美しい季節になりました。本当は日曜日だから多くの人たちにお参りして頂いて良かったんですが、緊急事態宣言中なので来れる方だけの縮小態勢で五月の月次祭をつとめて頂きありがとうございます。

報告とお礼

まず皆さんに報告なりお礼なりを申さねばなりません。四月の三十日に詰所で弟、詰所主任・芝光男氏が倒れまして、ちようど居合わせた家族が気がついて憩いの家へ運ばれ、折よく専門の先生がおられましたので脑梗塞だということですぐ処置をして頂き、とりあえずの処置で危ないところを助かったのですが、検査では左の頸動脈にほとんど詰まりかけてるところが二箇所あるそれを手術しましょう、ということに改めて五月十日に五時間以上かかるような手術を受け、そ

して順調よく経過しまして一昨日二十一日に無事に退院することができました。今は詰所で安静に努めていると思います。大変皆さんにはご心配を頂きありがとうございます。

非常事態・臨戦態勢

私は当日連絡を聞きすぐこれは非常事態が起きたと思います。非常事態というのは日常と違う、普段と違うことが起きた、大きな差し支えが起きた。それは非常事態ですね。非常事態の時はやっぱり非常事態の動きをしないとけない。例えば、台所の用事をしていて、火が何かに燃え移って火事が起きそうだと。そんな非常事態になった時にね、まあ料理を続けましょうという人はいないでしょう。まずは火事を消し止めないといけない。非常事態の時は非常事態の態勢を取らないといけないですね。当たり前のこと。

ところが一般的にはなかなかこれがうかうかしやすいんです。誰かが病気になったとかね、家族の中で何か揉め事が起きたとか、会社やお店で何か大きな失敗をしたとかね、そういう時は非常事態なんですね、日常ではないことが起きたわけですから。ところがうかうかして病気だから病院に任せておこう。病院に行ってお医者さんや看護師さんに任せてお

こう。事件や事故が起きたら弁護士や裁判所に任せておこう。というふうには日常が破綻してるのに他人に任せて自分たちは日常を過ごしてしまいがちなんですね。そうするとね、「事情上は道の花」と言われるんですけど、その道の花は何のために咲くか。実を実らせるために咲くんですけど、うかうかして非常事態の心構えと努力をしなければ実が実らないまま花のまま枯れてしまうことになる。病気が直るか直らないかにかかわらずせつかく咲いた花を生かされない。そういうことが一般には多いのです。だから私はすぐ非常事態だと思つてそういう心構えをしました。すぐ皆さんにも伝えて、教会としては非常事態とします、会長としては臨戦態勢を取ります、と。臨戦態勢というと大げさかもしれませんが、お道でも戦う、何と戦うかっていうと敵と戦うんじゃない。お道ではどんな場合でも決して敵は外にない。うかうかしがちな自分と戦う。叱咤激励してしつかりせよ、今ここを通る時が大事なんだぞ、そのように自分に対する警告やね。それを臨戦態勢と私は呼んでいます。皆さんの協力もたくさん頂いて通つたらまあおかげさまでなんとか無事に通れて、三週間ほどで弟は退院できました。まだまだ油断はできませんけれども、このひと月ということがあったわけですね。

ボヤ事件

これはお道では節（ふし）と言われていますが、世間の言葉で言えばピンチですね。大ピンチ。でもピンチはチャンスなんです。お道ではチャンス。野球なんかではピンチの後にチャンスありと言いますけれどもね、ピンチそのものがチャンスです。それが生き節になるということなんです。ここから父・芝太七著『一日一回おさづけ』p33~99の本と連動させながら話を進めましょう。

昭和二十二年七月末、父はシベリアの捕虜生活から奇跡的に生命をたすかつて帰国できました。そして母の素朴な姿に心を打たれ、勧められるままに修養科に入ります。ところがひと月たつたかない内に喘息になった。四カ月苦しんだ。その喘息を柳井徳治郎先生の一言、修養科の先生になりなさいと言われて、そんなことができるもんかなと思いつながら分りましたと心を定めたら、その日でピタリと喘息は止んだ。昭和二十三年四月から修養科の講師をつとめて六月に私・太郎が生まれました。当時は結核の患者が多く、現在の「憩の家病院新棟」のあたり、田部に結核療養所があり、父は志願してそこに寝泊まりしながらつとめる療養所修養科の講師として昭和二十四年一月から勤務しました。その一

月にちよつとした事件が起りました。

田部にある療養所から修養科の本校に自転車で行く途中、何となく引き込まれるように当時の住まいである宇佐の詰所に寄ったのです。すると、裏庭で自分のふとんが燃えている。驚いて訳を尋ねると、女子の修養科生がお腹が痛くなって戻ってきたら、もう痛くなくなったので、お手伝いしようと思って、二階の部屋に行くところとコタツに干してあったオムツがくすぶっていて今にも燃え上がる寸前。急いでバケツで水を掛け消し止めたところだということです。とにかく火事で大事件になるところをボヤで済んだわけです。

絶対価値の大地に足をつける生き方

そこで父が非凡だったのは、ああよかった、火事にならずに済んでよかった、とそれだけで済まさなかつたのです。芝家の誰かが灰になる運命だと悟り、その運命を変えるには「人たすけてわが身たすかる」という教えを実行しようと夫婦で心を定め、生活は切り詰めて講師をつとめながらおたすけに無我夢中で励みお供えを精一杯させて頂いた。

一般的には、そんなことと運命とどう関係があるのか？と思われるかも知れません。私たちはふだんお金とか物とか人

間関係という相対価値の中で暮らしています。確かに相対価値は大切です、お金や物、人間関係を決して粗末にはいけません。けれどもその相対価値が成り立っているのは命があるからであり、この天然自然があるから。つまり人間の力ではどうにもならない、買うこともできない作ることもできない、親神様のご守護、恵み、お働きの上に成り立っています。それを私は絶対価値と呼びます。大地の上に家やビルが建っているように、絶対価値の世界があるから相対価値が成り立っています。ところが命があったり天然自然があったりするのほもう当たり前のことですから私たちはついつい見過ごしてしまふ。気がつかない、当たり前として通ってしまふ。大きなビルが建ったらスゴイなあと感じて大地の上に建っていることを忘れて気がつかなかったりします。

私たちは相対価値についてとらわれて、あんなこと言われた、こんなことされたというふうに関係の中で気持ち腐らしたり、反対に喜んだり喜怒哀楽して相対価値の中で普段暮らしていますね。しかし絶対価値に支えられてこそ喜怒哀楽も可能なんだという心で通ると、生きていくだけでどんなにありがたいか喜べる。この喜びは喜怒哀楽の喜びとは次元の違う喜び、無条件の喜びです。絶対価値、天然自然の大地

に足がついてないと、ちよつとしたことで、何でこんなことになるのっていうふうに不足や不満で人生を暗く送りがちです。大抵そうなってしまうんですね。そこで絶対価値にこそ私達は生かされている。絶対価値に足をしっかりとつけることが生きていく上で大切なんです。これを父や母は実行してらるんですね。なぜこれができたかと言うと、父はシベリアで命のないところを通ってきました。今まで日本で暮らしていた相対価値の世界がまったくなくなって、命さへどうなるかわからないシベリアの捕虜の生活を一年も二年も通って何とか命からがら助かって帰ってきたんですね。母も父に帰ってもらうために商売をたたくんで処分して全財産をお供えした。絶対価値で生きているんだ、相対価値で生かされてるんじゃないんだというのを実践で通った。そういう意味で父も母も絶対価値に足がついている。だから次から次へと病気になるったり困難なことが起きてても苦しい、辛いけれどもその中でも足がしっかりと大地について、親神様のご守護あればこそという気持ちがある。

もちろんお金や物も大切。大切ですけどもお金や物が命を作るわけではない。神様のご守護で守られてる。そこに足をしっかりとつけて通るとというのが今言ったことなんです。

それで一生懸命おたすけしてお供えして頂いたお金を精一杯繋いだ。自分たちの生活は本当にギリギリで通ったと思います。そういう前置きがあったから、このあとまた母と胎児のいのちが危ういという大きな困難が起きるけれども、それを乗り越えていくんですね。

さて最初の話に戻りますが、弟の脳梗塞のようにこれから何が起きるか分かりません。何か自分の身に日常が壊れて非日常的なことが起きた時に、絶対価値に足をしっかりとつけるといふ生き方が大切なんです。そうでないと相対価値に翻弄されてお金で困ったとか物がなくなるとか人間関係で辛いかいふ相対価値に足をすくわれてピンチがますますピンチになるのです。これが世間一般の通り方なんです。

取り返しのできる相対価値はあとに回して、取り返しのできない命、絶対価値を神様に守ってもらおうという生き方。それを父と母は通った、何度もそういう中を通ってきたわけです。きょうはここまで。ありがとございました。

☆お知らせ☆

☆ 6月26日(土) 9時 本部月次祭(祭典後は登殿参拝できます)

☆ 6月29日(火) 18時 詰所祭(在住者のみにてつとめます)

☆ 7月4日(日) 10時 女子例会・はるのひ会

☆ 7月11日(日) 9時半 おぢばがえりひのきしんと男子例会(詰所)

☆ 7月11日(日) 別席日(教会を11時出発)

☆ 7月18日(日) 10時~12時 女なりもの勉強会(どなたでも参加できます)

☆ 7月22日(木) 前日準備ひのきしん、神名流し(夕つとめ後)

☆ 7月23日(金) 11時 <<月次祭>>

☆ 7月29日(木) 詰所祭(在住者のみにてつとめます)

※《こどもおぢばがえり》《学生生徒修養会》は中止です

☆ 9月23日(木・祝) 芝ふみ・初代会長夫人20年祭(月次祭祭典後)

☆ 11月23日(火・祝) 教会創立60周年記念祭

☆ 人生とは、生涯かけての心の成人・自分づくり

☆ 信仰とは人生観・世界観をみがきつづけること

そのために、用意されているのが

・おぢばがえり ・基礎講座 ・別席 ・三日講習会 ・修養科 ・講習

○ 修養科をおすすめしましょう!(毎月、25日までに申し込み)

・若い方=これからの人生の基礎固めとして

・年配の方=人生の美しい集大成のために